

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

情報教育推進委員会	
(責任者名) 島田 沢彦	(役職名) 情報教育推進委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等																								
学内からの視点																									
プログラムの履修・修得状況	「情報基礎(一)」および「情報基礎(二)」は全学共通の必修科目であり、卒業者の履修率は100%である。この2科目以外の他の本教育プログラム構成科目については、情報教育センターにおいて、学生の履修・単位取得状況を把握、確認している。 本教育プログラムのコア科目である「特別講義データサイエンス基礎」については、オンデマンド授業の受講状況、ライブオンライン授業の出席状況、課題提出状況、回答状況等を履修者ごとに把握し、分析している。																								
学修成果	本プログラムのコア科目「特別講義データサイエンス基礎」の履修者を対象とするアンケートを実施し、履修者の理解度、興味関心、学習意欲について調査している。結果は情報教育推進委員会に報告し、本教育プログラムの評価および翌年度のプログラム改善に活用している。 以下のアンケートではいずれも73%～79%が「とてもそう思う」、「そう思う」と回答している。 ・「特別講義データサイエンス基礎」の授業に「意欲と関心を持っていたか」 ・「学習したことは今後の学部・学科の勉強に役立つと思うか」 ・「データサイエンス、AIに対する興味・関心が高まったか」 従って、本教育プログラムの主旨、内容についての理解度は高いと考えられる。																								
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本プログラムの構成科目の履修者に対しアンケートを実施し、その理解度について調査した。「特別講義データサイエンス基礎」、「情報基礎(一)」、「情報基礎(二)」では以下の結果を得た。 <table><tr><td></td><td>ほぼ理解できた</td><td>70%ほど理解できた</td><td>半分は理解できた</td><td>30%ほど理解できた</td><td>ほとんど理解できなかった</td></tr><tr><td>特別講義データサイエンス基礎</td><td>9.0%</td><td>48.0%</td><td>36.5%</td><td>5.6%</td><td>0.8%</td></tr><tr><td>情報基礎 (一)</td><td>49.1%</td><td>37.5%</td><td>11.6%</td><td>0.8%</td><td>1.1%</td></tr><tr><td>情報基礎 (二)</td><td>39.8%</td><td>38.3%</td><td>19.3%</td><td>1.8%</td><td>0.8%</td></tr></table> 従って、授業内容の理解度は高いと考える。 なお、本プログラム開始初年度であったことから、「特別講義データサイエンス基礎」の履修者のうち、「実験計画法」、「生物統計学」、「統計学」、「統計基礎」、「計量生物学」を前年度までに既修した者、あるいは当年に履修した者は少数であった。前掲の統計関連科目の単位修得者の半分以上は、いずれの科目についても「理解できた」と回答している。		ほぼ理解できた	70%ほど理解できた	半分は理解できた	30%ほど理解できた	ほとんど理解できなかった	特別講義データサイエンス基礎	9.0%	48.0%	36.5%	5.6%	0.8%	情報基礎 (一)	49.1%	37.5%	11.6%	0.8%	1.1%	情報基礎 (二)	39.8%	38.3%	19.3%	1.8%	0.8%
	ほぼ理解できた	70%ほど理解できた	半分は理解できた	30%ほど理解できた	ほとんど理解できなかった																				
特別講義データサイエンス基礎	9.0%	48.0%	36.5%	5.6%	0.8%																				
情報基礎 (一)	49.1%	37.5%	11.6%	0.8%	1.1%																				
情報基礎 (二)	39.8%	38.3%	19.3%	1.8%	0.8%																				
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	情報教育センターにおいて本教育プログラムのコア科目である「特別講義データサイエンス基礎」の履修者を対象とし実施した授業アンケートでは、後輩学生や他の未履修の学生への本教育プログラムの推奨について、以下の回答が得られた。「ぜひ薦めたい」、「薦めたい」と回答した者は全体の60%を超えており、本教育プログラムの推奨度は高いと考えている。 ぜひ薦めたい(15.9%) 薦めたい(46.8%) どちらでもない(31.5%) あまり薦めたくない(4.2%) 薦めたくない(1.6%)																								
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	兼務教員会議、情報教育推進委員会を定期的に実施し、数理・データサイエンス・AI教育の内容について各専門分野からの意見も取り入れ見直し等を検討し、学生の履修を推進している。																								

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本教育プログラムは令和5年度から開始し、初年度は修了者335人の内、4年生が58人おり、プログラムを修了した卒業生を初めて輩出した。本学キャリアセンターと連携し、進路先や採用状況を把握することができる体制を設ける。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>本プログラムの一部を担当した株式会社 富士通ラーニングメディアよりいただいた以下の意見を教育プログラムに反映した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業におけるテーマ(就農支援、負荷軽減、ノウハウ移譲)をもとにした課題解決型データ活用ワークショップ ・DX推進スキル標準でも必要スキルとして挙げられる「デザイン」スキルの向上を目的としたワーク設計(ユーザー探求やバリュープロポジション設計等) ・今後学生が、ユーザーのニーズをもとにした農業課題解決に興味を示すことを期待した講座設計
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	モデルカリキュラムリテラシーレベルの導入部分に準じた内容を展開し、時事やトレンド、本学学生の専門分野である農業など、社会での実例をもとにデータサイエンス、AI等がどのように活用されているかを授業内で取り上げている。また授業内でワークショップを開催し具体的な課題解決を行う実習を行うことにより意欲・好奇心を促す講義内容としている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	兼務教員会議、情報教育推進委員会を定期的に実施し、学生からのアンケート結果を分析し、各授業科目および「特別講義データサイエンス基礎」科目の各授業コマの講義内容・実施方法について見直しを検討している。